

日本思想史学会 2020 年度大会

2020 年 11 月 7 日（土）8 日（日）

プログラム

2020 年度大会はオンライン開催（シンポジウム・総会・「思想史の対話」研究会は甲南大学岡本キャンパスよりインターネット中継を予定）となります。テレビ会議の URL や特設サイトの情報は事前に登録フォームに記入して頂いたメールアドレスにお送りします。※紙での郵送等は一切行いません。

日 程

11 月 7 日（土）第 1 日

◆シンポジウム「日本思想史学から見る近現代の天皇」（13：00～16：40）

発表者

河西 秀哉（名古屋大学）「象徴天皇制への転換と定着一皇室記者・藤樫準二の言説を中心に一」

黒川 伊織（神戸大学） 「戦間期 коммуニストの思想／運動における日本／「天皇制」認識」

小平 美香（学習院大学）「近代天皇制における皇后と祭祀儀礼の意義」

コメンテーター（ディスカッサント）

昆野 伸幸（神戸大学）

米谷 匡史（東京外国語大学）

司会 大谷 栄一（佛教大学）

◆総 会（17:00～17:30）

11月8日(日)第2日

研究発表(10:00~16:40)

	第一部会		第二部会		第三部会	
10:00~10:40	冥界と伊勢神宮 —一度会常昌の高宮観を中心に—	馬場 秀幸 (東北大学・院)	札幌農学校における文明論について	ロバート・クラフト (筑波大学・院)	普通選挙法成立後の 水野錬太郎の政治思想	西田 彰一 (日本学術振興会)
10:50~11:30	熊沢蕃山の音楽思想 —『雅楽解』を中心に—	中川 優子 (東京藝術大学・院)	有賀長雄における「文明」論と「天皇」	崔 民赫 (韓国海軍士官学校)	平泉澄とカント	谷口 太一 (皇學館大学・院)
11:40~12:20	近世の学習者はいかに漢文を〈書く〉能力を身につけたか —仁斎・淇園の塾における「作文」学習を中心に—	張 茜 (大阪大学・院)	明治末期から大正中期にかけての文明論 —金子筑水・樋口龍峽の考察を通して—	山田 大生 (学習院大学・院)	第二次世界大戦最終局面の思想戦 —西田幾多郎と佐藤通次の論争を通じて—	栗田 英彦 (佛敎大学)
12:20~13:30	休 憩					
13:30~14:10	本居宣長と規範としての雅の成立 —初期歌論における武の解体—	増田 友哉 (東北大学・院)	福沢健全期『時事新報』社説に おける海軍論	平山 洋 (静岡県立大学)	占領期神戸の女性軍属の エゴドキュメントをどう「読む」か	長 志珠絵 (神戸大学)
14:20~15:00	「正法王」の出興—近代日本における 釈雲照の戒律復興運動を中心に—	亀山 光明 (東北大学・院)	梁啓超の「社会契約論」と中江兆民	龍 蕾 (神戸大学・院)	六〇年代のラディカリズムと革命幻想 —吉本隆明の市民社会と大衆—	王 小梅 (神戸大学・院)
15:20~16:00	近代日本における経典解釈の変容 —境野黄洋を中心として—	呉 佩遥 (東北大学・院)	松崎鶴雄—生涯とその学問・思想—	井澤 耕一 (茨城大学)	水俣で学ぶ —「水俣大学構想」から考える—	丹波 博紀 (大正大学)
16:10~16:50	近代における新修養の幕開け —仏教者・加藤咄堂を中心として—	山口 陽子 (東北大学・院)	橘樸における「生存権」の デモクラシーと東アジア	谷 雪妮 (京都大学)		

第6回 「思想史の対話」研究会(14:00~17:00)

題 目:「対話:日本思想史と災厄」

殷曉星(立命館大学)「備荒策としての郷約・教化のための郷約」

加藤真生(名古屋大学大学院)「兵士の死」の国際的な抑制の時代:19世紀末から20世紀初頭における軍事医療研究の国際化と日本陸軍軍医部」

村上晶(駒澤大学)「災因論の手前で—津軽の巫俗を中心に日常の不幸を考える」